

十月になれば How I Long for October

1984年 35ミリ モノクロ 85分 ベトナム 日本語字幕付き

監督：ダン・ニャット・ミン

脚本：ダン・ニャット・ミン

撮影：グエン・マン・ラン

ファム・フク・ダット

美術：グエン・ヴァン・ヴィ

音楽：フ・クアン

出演：レ・ヴァン

グエン・フー・ムイ

グエン・ミン・ヴン

ライ・フー・クオン

チン・フォン

ベトナムのある村。ズエンの恋人は軍から召集されて戦場に行くことになり、二人はすぐに結婚する。出征後、長く戦地から戻らない夫を訪問したズエンは、そこで夫の訃報を知る。ズエンと同居している義父は息子が帰ってくる日を心待ちにしていた。彼女は義父を悲しませたくないために、偶然夫の戦死を知った小学校の先生カーンに頼んで、夫からの手紙を書いてもらい、夫が活着しているように見せかけるのだった。カーンは偽の手紙を書くことに罪悪感を感じるのだが、彼はズエンが好きで頼みを断れなかった。それでも真実を伝えるように彼女を説得するため手紙を書くのだが、それが家族に見つかってズエンとの仲を怪しまれてしまう。カーンは村人の間に噂が立ってズエンに迷惑がかかるのを恐れ、だまって姿を消すのだった。

ズエン、カーン、そしてズエンの義父と三人の登場人物が織りなす心優しい、情緒豊かな作品である。この映画を象徴する場面として、夕方の広場で様々な軍服を着た男が行き交う場面がある。この日は日本のお盆のような日で、死んだ人間が帰ってくる日なのである。ベトナムはフランス、アメリカ、中国などと戦争が続いたため、時代により歩いている人の軍服が違っている。そして最後にズエンの夫の幽霊がたたずんでいる。ベトナムの苦難の時代が凝縮された名シーンであり、深い悲しみが心にしみる。本作の題名には、10月は実りの時であり、今は苦しくてもきっと実りの時が来るという意味が込められている。